

JEAS  
in  
Sendai

## 地方における環境アセスメント士の普及について

私の勤務する東北緑化環境保全株式会社は、東北電力企業グループとして東北6県と新潟県を中心に、発電所に係る環境アセスメントをはじめ、各種の調査・分析のほか、造園土木を中心に土木工事も行っています。分析業務では一般項目から有害物質、放射線測定も行っています。近年は、行政計画



東北緑化環境保全(株)  
TEL.022-263-0607  
<http://www.tohoku-aep.co.jp/>

等のコンサルタント業務も展開しています。

私が入社したころは環境アセスメントの草創期であり、電力各社は閣議決定アセスメント制度により、現地調査・影響予測・低減対策を行っていました。私は発電所の環境アセスメントを担当しましたが、発電所建設が一巡してから廃棄物処分場に係る生活環境影響調査を担当し、現在では、行政計画等の各種業務も行っています。

環境アセスメントを行うにあたっては、事業者からは常に「はやく、やすく」業務を行うよう求められます。環境アセスメント士には、事業者・地元住民・行政を調整し、環境影響を極力低減できるような技術的裏付けを持った提案を行う役目があります。また、技術だけでなく地域貢献等の見識も必要となる場合があります。

生活環境部門(2005年)  
笹川健一



技術はマニュアル書や文献等により得ること

が可能ですが、見識については幅広い経験や知識が不可欠です。

東北地方に本社を有する地元コンサルタント会社の数は少なく、環境アセスメント士も大手コンサルタントに所属する人を含め20人にも満たない状況です。東北地方では、コンサルタントのプロとして役に立つ講習会はまだまだ少なく、地元コンサルタント会社には情報がほとんど入らない状況です。

私は仙台にある東北環境アセスメント協会(JEASとは別団体)で、事務局の一員として情報発信の一翼を担うことで、環境アセスメント士の普及や地元コンサルタントの技術・資質の向上に役立つことで、地元に貢献できれば幸いです。

JEAS  
in  
Wakayama

## 環境アセスメント士の役割

和建技術株式会社は、1970年に創業した「和建測量」を母体とし、1979年に設立しました。測量業務からスタートしましたが、計画・設計、地質・海洋調査、応用計測、環境アセスメントなど地方にありながらも自社で対応できる総合建設コンサルタントを目指して発展させてきました。業務は和歌山県内が中心ですが、大阪市にも支店をもち近畿南部で機動的に展開させてい



和建技術(株)  
TEL.073-447-3913  
<http://www.waken-eng.com>

ます。

私の所属する環境システム部は、生活環境及び自然環境分野の調査や解析、予測・評価など小さいながらも幅広い環境に対応可能な体制を取っております。私は生まれ故郷にあるこの会社に4年前に合流し、生態系分野を担当し、紀伊半島の豊かな自然を次世代に継承しながら地域と会社の発展を目指して苦悩しています。

1997年に環境影響評価法が成立して以来、環境アセスメント士は、技術的な信頼性の確保を目的に長い間検討が重ねられてきました。私はその技術内容やレベルなどを検討する教育研修委員の一員として試行錯誤を重ね、テキスト作成や研修会などでお手伝いをさせていただいていました。そのなかで環境アセスメントは、専門分野に特化した技術ではなく法律や制度、二律背

自然環境部門(2006年)  
瀬野直人



反することもあ  
るさまざまな分  
野などを総合的に判断し、持続的な社会を継続させるための技術であることを痛感しました。

この資格に限ったことではありませんが、受験するにあたり自分の専門分野以外の周辺技術について学ぶ機会を与えられたことが、資格の取得にも増して有意義であったと考えています。また、受験を機にそのような周辺技術についての情報を、できるだけ得ようと心がけるようになったのも大きな収穫でした。

今後この資格が、ますます社会的に認められるようになるために、できるだけ多くの方に取得していただき、幅広い視野を持った技術者が一人でも多くなることが、持続的な社会の構築に貢献するものであると確信しています。

JEAS  
in  
Osaka

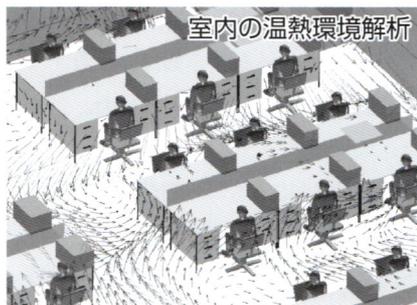
## 「自己啓発・自己研鑽」しています

生活環境部門(2005年)  
高瀬勝彦



私が勤務する応用技術株式会社は1984年に設立し、現在28年目を迎えています。環境アセスメント関連には約60名が従事しており、環境、防災分野における専門性と高度な解析技術及びGIS技術を駆使してコンサルティングを行っています。

私は入社以来、道路や施設の大気質、



応用技術(株)  
TEL.06-6373-6121  
<http://www.apptec.co.jp/>

騒音、日照などの調査・影響予測を行ってきましたが、最近は環境アセスメント業務の方法書から評価書作成まで一式の業務も行っています。また、危機管理の観点からデータセンターの需要が高まっていますが、それに関連してデータセンター内の室内温熱環境解析も手掛けています。

資格を取得してから5年が経過し、今年6月に更新を行いました。JEAS-CPD制度という継続教育制度の中で、日常的に技術力向上や最新情報の収集などの向上心が身に付き、業務を行う際にもこの姿勢が大いに役立っていると感じています。

CPDプログラムの形態としては、セミナー参加、論文発表、企業内研修会参加、業務経験、研究会等への参加のほか、ユニークなものとして学会誌等の精読による自己学習などが認められ

ており、各自の継続教育として適したものを選択できる仕組みとなっています。私の場合は、セミナー参加、業務経験、学会誌等の精読による自己学習が多かったのですが、当協会の条例アセス研究会に研究員として参加させてもらい、これもCPDプログラムの一つとなりました。

私はこれからも環境アセスメント士として日々スキルアップに努め、より良い環境アセスメントを実施していきたいと考えています。皆さんもこの資格を取得し、自己啓発・自己研鑽に努め、技術者としてのスキルアップを図っていきませんか。一人ひとりの研鑽が、環境アセスメントの信頼性確保につながり、環境アセスメント士の地位向上に役立つことを願っています。

JEAS  
in  
Tokyo

## 人と生きものの共生を目指して

自然環境部門(2008年)  
中島 拓



株式会社地域環境計画(ちいかん)は、「生きものと共生する地域づくり」を理念に、自然環境に関連する環境アセスメントのほか、生物多様性戦略の策定や獣害対策など生きものに関わる業務を幅広く行っています。また、動植物の位置情報と地理情報を重ね合わせて解析するGISの活用も積極的に進



(株)地域環境計画  
TEL.03-5450-3700  
<http://www.chiikan.co.jp/>

めてきました。2011年でちょうど創立30年を迎えた現在、北海道から九州に至る6支社を展開して、地域に根ざした自然環境の保全を実践しています。環境アセスメントに関連する業務では、高速道路やダムといった公共事業のほか、風力発電所や住宅団地といったさまざまな分野において、自然環境の現状把握と事業が及ぼす影響の予測、保全対策の立案を行っています。

私は大阪支社に勤務し、主に近畿地方や四国地方のフィールドを担当しています。これらの地域では手つかずの自然は多くありませんが、人との関わりの中で成立してきた自然が多く分布する特徴があります。まさに“生きものと共生する”地域が普通に存在していたのです。しかし、人と自然の関わりが薄れてしまった今日、この共生関係は崩壊の一途をたどっています。か

つての里山は鬱閉化やシカの増加にともなって生物多様性が低下する一方、山際の農村部では獣による農作物の食害が著しく、農業が成り立たなくなっています。

このような現状を目の当たりにしてきた私は、単純に自然環境の保全だけが私たちの責務ではないと考えるようになりました。“生きものと共生する”社会とは？今更ながら、この言葉の難しさを実感しています。私はこの資格取得を機に、多くの先輩技術者と交流できる機会に恵まれました。今後、この機会を生かして積極的に意見交換や技術交流を行い、自分なりに人と生きもの新たな共生のあり方を見つけ出したいと考えています。そして、地域の現状に即した提言ができる環境アセスメント士を目指しています。